はいかが？なおこの随筆の著者は伴資芳という近江八幡でタタミ表や蚊帳（かや）の問屋を業とした豪商で，閑田子だの蒿蹊などと号し文化 3 年に没し，大正 4 年に従四位を贈られている。家業の余技として趣味の豊かな人であったらしく，その点では浪華の兼葭堂巽斉，北越雪譜の著者鈴木牧之，弄石家の木内石亭のような心のゆたかの人であったと思はれる。なにはともあれ，このムベの花籠はインスタント民芸品の横行する今日からすれば，まことに心のこもった民芸品であるといわなければならない。したがって，滋賀県植物志をかざるにふさわしく，むしろ口絵にされてもよかったかと思う。当時有名であったものと見え卯花園漫録（1806），嘉良喜随筆（1808）などみな記録しているが閑田随筆の記事がもっとも詳しいけれども，故実に関するものであるから，ここでは省略することにした。

A ritual gift to the Throne (ca. 1,320 A.D.): a fruit basket intertwisted with *Stauntonia* twig containing fruits of the same plant.　（東邦大学薬学部）

○シロバナアサツキ（上野雄規）　Yūki UENO: On a white-flowered form of *Allium schoenoprasum* var. *foliosum*

アサツキは日本では北海道，本州，四国に自生し，時には栽培される。宮城県女川町江島諸島には，アサツキが各所に群生しており，5～7 月，紅紫色の花を開くが，1969 年 7 月 17 日，江島諸島蛇島で花被が白色のものを採集した。自生地は，岩が崩れて土砂が多少堆積しており，アサツキの小群落中に数株ほどまとまって生えていた。本品は，花色以外の鱗茎，茎葉，花，包葉などにはアサツキとの差異が認められないので，その白花品種として，シロバナアサツキの名を与える。

なお，本記載の御指導をいただいた大井次三郎先生に感謝の意を表します。

Allium schoenoprasum L. var. *foliosum* Regel f. **albiflorum** Ueno, f. nova.

Flores albescentes. Cetera ut in typo.

Honshū: Isl. Hebijima, Enoshima Islands, Onagawa-chō, Miyagi Pref. (Jul. 17, 1969, Y. Ueno—Holotype in TNS, and isotype in Herb. Y. Ueno).

（宮城県女川町　女川第五小学校）

□北村四郎他：**日本の文様　花鳥**　全 3 巻（1. 日本系列，2. 中国系列，3. 異国系列）29×23。1：233 頁，2：229，3：269），1949　各巻価 3,800 円，淡交新社。正倉院その他に収蔵されている，名器，美術品多数を集録し，それらの文様解説をした豪華版で，北村氏は各巻のデザインとなっている植物や生物を解説し，吉田光邦氏はデザインの歴史的試論なる考察を執筆しているので，工芸品の知識を得られると同時に植物的の知識をも得られるので，各層に興味あるものと考えられる。つまり美術工芸の書であると同時に植物の参考書であるのみならず応接室ライブラリーに適切である。

（久内清孝）